

## —伊勢湾台風と中ノ川—

1、伊勢湾台風の状況:

この台風 15 号(後に伊勢湾台風と呼ばれる)は 1959 年(昭和 34 年) 9 月 26 日 夕方、和歌山県(潮岬付近)に上陸、東寄りに北上して三重・愛知・岐阜県より日本海に入り 9/27 朝、青森県に上陸し、その後太平洋に抜けました。この間、人的・物的共に被害は大きく特に死者行方不明者は全体で 5098 名(その内三重県は 1281 名)主に愛知県、三重県が多かったようです。特に木曾三川の流れ込む地域(海拔 0m 地域)に被害が集中しました。尚この台風の規模は明治以来の超大型台風と言われ、伊勢湾岸に大きな被害を残しました。上陸時の雨量 40～70mm・最大風速 75m/s・気圧 920hpa でした。9/26 当日の朝は天気が良く午後から急変し大雨になりました。まさか東海地方を横切るとは誰も思わなかったようです。

(当時の防災情報ニュース参照)

2、中ノ川流域について:

## ●歴史:

この川は津市芸濃町の錫杖ヶ岳(しゃくじょうがだけ)標高約 700m、を源流として合川・天名・栄地区を緩やかに蛇行しながら流れ、磯山地区より伊勢湾に注ぐ総延長 21km の 2 級河川です。

この流域一帯の丘陵地帯は古墳や遺跡等が数多く発見され弥生時代(紀元前 300 年代～)には既に大きな集落が存在していたようです。

又この頃には中ノ川の水を利用しての稲作農耕も始められており歴史的にも大変価値のある流域であったようです。

(考古学博物館資料参照)

## ●本ページへの掲載理由:

この流域も台風の影響を受け堤防決壊による大きな物的被害はありまし  
く

たが人的な被害はなかったようです。この状況を自ら現場体験した一人として当時を振り返り近い将来発生が予測される大きな自然災害対応の参考になればと考え本ページに投稿させて頂きました。

ーこれは 64 年前の出来事ですー

### 3、この台風による中ノ川堤防決壊について:

決壊日は 9 月 26 日夕方以降と思われ、決壊場所は現在の高橋と秋永堰のほぼ中間地点の左岸で約 20~25m に渡って深く抉られたように決壊しました。(当時の撮影された決壊現場写真は紛失して添付出来ません)又川の水位が増して危険な状態を住民に知らせるため“ほら貝”を代表者が吹いて地区を廻り、知らせたとの話はあるが今となっては定かではありません。

### 4、田畑の被害状況:

稲の収穫期前の田畑に多量のガレキ類(石・砂・材木の切れ端・草・一般のゴミ等)が山のように稲穂を覆い、特に決壊箇所近辺は堆積物が多かった。刈り取りが終わった直後の稲の多くは濁流に流され又稲掛(はさがけ)されたものは杭共々流されたようでした。



ーこれは現在の河川ー  
・決壊箇所を河川内側から撮影  
(赤丸印)  
・後方は徳田地区集落



- ・左岸堤防の決壊箇所(徳田地区側より撮影)、赤丸印手前付近の田へのガレキ堆積被害が大きかった
- ・後方右側建物は天栄中学校



- ・現在はコンクリート補強され又川底を浚渫し、雑木林を刈り取り、川の流れを良くした河川内側の状態



- ・中橋中央部に取り付けられた水位計測器(赤丸印)

### ●ガレキ等の処理

山のように堆積されたガレキの処理には大変な苦労があったようです。当時は現在のように農道は十分な整備はされておらず又重機やトラック

等の機械も十分なものではありませんでした。人力や牛による荷車程度のものや一般の農具類でした。又ボランティア的な人はいなくて全て家族・親戚・知人等で助け合いながら処理をしていたと記憶しています。ガレキ処理場としては近在の山や畑(台風により傷んだ箇所等)に運び自分達で処理をして、一部の粗大ゴミ等は自治体に依頼したと聞いています。

### 5、徳田地区家屋の被害の状況:

決壊箇所に直面した徳田地区は建物の基礎部分の高さの差異等にもよりますが殆どが床下浸水(一部は畳の上まで浸水した家もあったようです)での状況でした。又どの高さまで濁流が来るか予測出来ないのも家族全員心配して畳や家具類をより高い所へ移動させた家もあったようです。尚トイレは汲み取り式であり濁流と共に汚泥も流れ出て廻りは不衛生な状態になり、又水分を含んだ壁は崩れ落ちました。水道はなく井戸水でしたが飲み水の汚れは聞いていません。勿論家屋の外廻りや庭・道路・畑等も同じ様に汚れた状態になりました。又電気関係の大きなトラブル発生はなかったようです。

#### ●台風後の家屋の清掃、消毒:

家屋の外回りの清掃作業も大変でしたが更に時間がかかったのが床下に流れ込んだゴミ除去・床板清掃・汚泥処理・壁補修・消毒等に大変な苦労があったようです。尚この部位は洗浄後の乾燥にも多くの時間を要したようです。

(地域の年配者等の意見参照)

### 6、補強された現在の堤防:

#### ●主な実施内容

- ・河川内側堤防のコンクリート補強、不要物処理(畑・土砂・木々等々)
- ・堤防高さ、幅修正
- ・河川蛇行部分修正、川底浚渫(流路確保、流れをスムーズ)
- ・河川水位計測器設置、監視カメラ設置

**7、今後の自然災害の被害を少なくするために考えておく事:**

- ・速やかに災害情報(台風・津波・地震・大雨洪水等)を入手する  
……落ち着いて情報の正確性を検証
- ・その情報に基づいて身近な人と良く相談する  
……避難方法・避難場所・持ち物等
- ・過去に発生したその地域の被害の状況(歴史)をよく学んでおく  
……河川・家屋・田畑・山・インフラ等
- ・普段から家族、知人等との連絡網を整理しておく  
……異常時の対応策

**●最後に:**

現在は立派な堤防や河川に修復されました。しかし予測不可能な災害は発生するかも知れません。常に危機意識を持つことが大切です。同じ失敗を繰り返さない為にもその災害の歴史を学びそこから新しい対応策を取り込めば被害は最小限になると思います。

**2022/7/22 2L**